

崩壊熱評価 W.G. サブグループ会合議事録

日 時 昭和 56 年 6 月 26 日 (金) 13:30 ~ 17:10
場 所 原研東海研究所 研究 2 棟 322 室
出席者 中嶋(法大), 吉田(NAIG), 秋山(東大), 田坂, 井原,
松本(原研)

議 題

1. 2 年報原稿作成について (松本)

シグマ委員会の 2 年報の原稿を書く時期になり, 松本が編集担当のメンバーに加わり, 6 月 13 日に打合せがあった。その結果, 崩壊熱評価の成果をハイライトの 1 つに取り上げることが決り, 原子力学会誌 1.5 頁相当を執筆する。松本が中嶋と相談して原稿を書く。12 月号辺りに掲載を予定している。

2. 学会誌への投稿

崩壊熱評価の仕事の紹介を, 原子力学会誌の“談話室”または“私のノートから”に投稿する。秋山または吉田が執筆を担当する。

3. 米国の崩壊熱研究の状況について (吉田)

吉田氏より 6 月 8 日 ~ 11 日にマイアミで開催された ANS-meeting に出席されたさいの, 崩壊熱に関係した情報の説明があった。たとえば, Schenter 氏が崩壊熱評価の彼らの仕事を英, 日本と密接に協力してやったと報告されたこと, また England 氏も ENDF/B-V で崩壊熱の実験値が良く合わず, JNDC の崩壊データに置換えて合ったと報告したとか, われわれの成果が注目されたそうである。Schenter 氏は, 日本のやり方を長短とも良く理解したコメントをしていた。また, 吉田氏が報告した日本の計算結果, 秋山氏らによる速中性子核分裂による崩壊熱測定も非常に興味を持たれた。また, 米グループの人との会合, ニュートリノに関する話題など

の説明があった。

データ交換についてはお互いに合意し、中性子捕獲断面積データ、核分裂収率崩壊データをお互いに送ることになった。

核分裂収率については、B-V 相当のものを提供してくれること、また、HAUSER*5、FERRET コードなどもくれるとのことであった。

4. 報告書の作成について

崩壊熱核データのデータ・ブック的な報告書を作ることにし、A4 横とじ 1 質量 1 頁、標題は“ JNDC FP Decay and Yield Data ”とする。その他の報告書の作成も進める。

5. 次回会合

7 月 30 日 (木), 31 日 (金) 頃を予定する。